大橋鉄工

秋田の生産体制強化

トヨタ東日本向け 来年から現地供給 地元3社と連携

自動車部品メーカーの大橋鉄工（本社北名古屋市、大橋雅史社長）は秋田県で生産体制を強化する。現在、トヨタ自動車東日本（本社宮城県大衡村）向けの部品を本社から全量供給しているが、来年初めから順次秋田の製造子会社での生産・供給に切り替える。納入リードタイムの短縮やBCP（事業継続計画）対応の強化が狙い。現地生産化に向けては地元企業3社と連携する計画で、秋田の自動車産業の発展にも貢献していきたい構えだ。

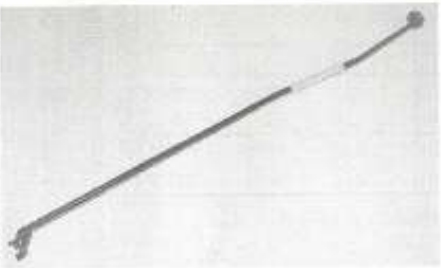
（岩崎幸一）

生産体制を強化する大橋鉄工秋田（秋田県横手市）

大橋鉄工は2015年11月に秋田県横手市に製造子会社「大橋鉄工秋田」を設立。AT（自動変速機）部品の「パーキングロッド」を月間約50万個生産し、トヨタ自動車北海道（苫小牧市）に直接納入しているほか、本社を通じてトヨタグループ各社に供給している。

愛知と秋田の生産分散化で災害リスクを減らすBCP対応の強化が図れたものの、トヨタ東日本向けは本社からの供給が続いていた。トヨタ東日本はコスト競争力強化を狙いに部品の現地調達拡大を進めており、大橋鉄工ではこれに対応して現地生産に切り替えることにした。

計画では、車のボンネットを開く時の支柱となる「フードサポート」、エンジンオイル量を計測する「オイルレベルゲージ」、オイルレベルゲージを支える「ガイドパイプ」のトヨタ東日本向けの生産を本社から大橋鉄工秋田に移す。フードサポートは来年1月から月4万2千個、オイルレベルゲージとガイドパイプは来年4月から月5万4千個、同1万5千個それぞれ生産する。トヨタ東日本に供給するほか、フードサポート、オイルレベルゲージは愛知県への供給も予定している。



秋田で新規生産する「フードサポート」

現地生産にあたっては秋田県の3社と連携。フードサポートのカチオン電着塗装は秋田化学工業（にかほ市）、ガイドパイプの亜鉛めっき処理は太平化成工業（秋田市）、ガイドパイプの小物プレス品の加工は東京端一（大仙市）に協力してもらう。連携先の開拓には県輸送機産業振興室が協力。3社ともトヨタ向け部品を手掛けるのは初めてで、トヨタ東日本OBの指導を受けながら品質管理などを学んできたという。

トヨタグループと取引関係が深い大橋鉄工の進出、生産強化は「地元で自動車産業が育つきっかけになる」と県関係者は大きな期待を寄せている。大橋社長は「今後は秋田で型や治具の製作、レーザー焼き入れ技術の実用化、評価試験などにも対応したい」とし、付加価値の高い業務も秋田で展開する考えを示している。